

令和七年度春季入学(春季募集)

熊本県立大学大学院 文学研究科日本語日本文学専攻 博士前期課程

一般選抜入学試験問題

― 注意事項 ―

- 1 試験開始及び終了は、監督者の時計が基準です。監督者の指示に従ってください。
- 2 試験開始後は四十分を経過しなければ退室できません。また、試験終了十分前から退室できません。
- 3 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いて中を見てはいけません。
- 4 解答用紙への受験番号などの記入は試験開始の合図があつてから始めてください。
- 5 設問は 一 二 三 の三題です。解答すべき問題は次の通りです。
 - 一 全員必須
 - 二 ①②とも全員必須
 - 三 ③～⑪のうちから二問のみを選択
- 6 設問 三 の各解答用紙の冒頭には、どの問題に対する解答かわかるように、③～⑪までの番号のいずれかを記してください。
- 7 解答用紙は五枚用意されています。追加で解答用紙を必要とする場合は静かに手を挙げてください。
- 8 答案回収時に解答用紙を提出しない場合、本科目は採点されません。
- 9 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ってください。

一

次に掲げる版本は、ある代表的古典作品の冒頭である。以下の問に答えよ。

著作権保護の観点から、問題文は掲載していません。

問一 右のテキストの作者と作品名を答えよ。

問二 傍線部①を正確に翻字せよ。なお、一文字だけ漢字を含んでいるので注意すること。

問三 傍線部②は、仮名六文字から成る。すべて字母で答えよ。

問四 同じく傍線部②について、文脈上その意味するところをわかりやすく説明せよ。

問五 傍線部③の意味を考慮して、充てるのにふさわしい漢字を答えよ。

二 次の問題に答えよ。(二問とも必須)

① 現代日本語の表記(および表記法)の特徴について知るところを述べよ。他言語との比較を含め、
ても良い。

② 近世文学の特色の一つとして、多くの作品が商業出版によって流布したことが指摘されるが、そのことを可能にした、中世末から近世初期における出版をめぐる状況について、その主体や印刷技術の変遷とそれぞれの特徴などにふれつつ、商業出版に至る展開について述べよ。

三 次の問題のうちから二問を選択して答えよ。(二問のみ選択)

③ 助詞の分類上、係助詞と副助詞を区別する場合、どのような事柄を根拠とすべきかについて、学説を参考にしつつ、自らの考えを述べよ。

④ 平安時代における日記文学の展開とその文学史的意義を説明せよ。

⑤ 日本語共通語の動詞の非過去接辞について、あなたは左に挙げた(A)・(B)・(C)の三つのうちでどの立場をとるか、もしくは、いずれの立場もとらないか、理由とともに述べよ。

(A) 基底を/と/として、/は子音が削除されたものと捉える。

(B) 基底を/と/として、/は子音が挿入されたものと捉える。

(C) 基底に/と/と/の両方を認める。

- ⑥ 漢字の発音標示方法である「反切」の利点を、「読若法」「直音法」と比較しつつ述べよ。
- ⑦ 大正文学の特色について、作家・作品・事項等の具体例を挙げて述べよ。
- ⑧ CLIL（内容言語統合型学習）とCBI（内容重視の教授法）の類似点と相違点を説明せよ。
- ⑨ 左は元禄八（一六九五）年刊の『蜷縮涼鼓集』が掲出する「新撰音韻之図」である。現行の五十音図と相違する点を指摘し、その相違の要因として考えられることを記せ。
- 著作権保護の観点から、問題文は掲載していません。

（『国語学大系』九巻 国立国会図書館デジタルコレクション info.ndl.jp/pid/1262350 による。）

- ⑩ 伊藤仁斎の文学論が近世文学に与えた影響やその意義について説明せよ。

⑪ 兵藤裕己「解説1」『太平記』の成立（『太平記（一）』岩波文庫、二〇一四）は、室町時代における『太平記』の受容をめぐる、当時の貴族の日記・記録として、

著作権保護の観点から、問題文は掲載していません。

〔後法興院記〕文正元年（一四六六）五月二十六日

著作権保護の観点から、問題文は掲載していません。

〔親長卿記〕延徳二年（一四九〇）五月十六日

右の二例を引き、「いずれも『太平記』が寺院の「談義」の場で「読」まれた例である。「談義」は、
経典の法義について談じること。俗耳に入りやすいように、しばしば比喻因縁（たとえ・いわれ）
の物語を交じえて語られたが、みぎに引いた日記の記事は、『法華経』等の談義につづけて、『太平
記』が「読」まれた例である。」と解説する。

この指摘をふまえ、『太平記』という作品の受容・「読まれ方」を議論するうえで留意すべきこと
を述べよ。なお、『親長卿記』中の「知識」とは、すぐれた学識を備えた者（多くは僧侶）を指す。

以下余白